答辞

さわやかな風がそっと頬をなで、春の香りが漂う季節となりました。
今日、私たち２７名は、鹿北中学校を卒業します。
先生方、そして在校生のみなさん、私たちのために、このような素晴らしい式を挙行していただき、ありがとうございます。また、来賓の皆さま、心温まるお祝いの言葉、深く胸に刻まれました。

思い出すのは、制服、教科書、通学路、すべてが新しいものにあふれていた入学式。その日から今日までの３年間、本当に様々なことがあり、そのたびに、私たちはひとつひとつ成長してきました。

入学して、初めて先生から頂いた言葉は、「出会い直しをしてください。」という言葉でした。勉強、部活動、そして仲間との関係。すべてのことを、もう一度スタートしていくという決意を固めました。しかし、中学校生活は、これまでやってきたことが通用せず、悩むことばかりでした。

２年生になると、初めて「先輩」という立場になりました。
部活動、行事、日常生活、様々な場面で、「教わる」から「教える」立場になりました。後輩に教えることの難しさ、次は、私たちがリーダーであるという不安の中、生徒会役員の委嘱式がありました。
先輩から頂いた、「これからの鹿北中学校をよろしくお願いします。新生徒会役員みんなの活躍を期待しています。」という言葉は、これまでのどんな言葉より、重圧となり、その頃の私は、不安しかなかったことを覚えています。

そして、３年生。
不安を感じつつも、「私ならできるかも・・・」という根拠のない自信が心の中にありました。しかし、現実は、そんなに甘いものではなく、私の自信は、打ち砕かれていきました。
初めて任されたのは、「山のいぶき」の指揮。自分の指示や注意を、みんなは聞いてくれるだろうか、何か言われたらどうしよう、という不安。勇気を持って伝えようと思っても、いざとなると、何も言えない自分が嫌いでした。うまくいかないこと、思いが伝わらないこと、その現実に耐えられず、たくさん泣きました。そんな日々が、ついこのあいだのように感じます。

全体をまとめるリーダーシップをとるということに、完成形はありません。小学校とは違い、さらに上を、そして常に良いものを求められます。指揮だけではありません。部活動も、常に高いレベルを目指してきました。その度に悩んで、苦しんで、涙を流してきました。

これ以上ないほど、熱く、熱く燃える気持ちで臨んだ体育大会。のどがかれようと、どんなにつらくて、限界を感じようとも、体育大会テーマ「完全燃焼」に向かって、みんなに厳しく、それ以上に、自分に厳しく練習を重ねてきました。そして、迎えた本番。きつかった。つらかった。苦しかった。けど、最後は、何とも言えない充実感がありました。

限界の先には、「楽しさ」がありました。

体育大会は、自分の殻を破り、新たな一面を見つけるチャンスとなりました。

３年間の部活動の集大成である「中体連大会」や「吹奏楽コンクール」、それぞれの部活動が、この大会に臨むまでに、気の遠くなるほどの、練習を積み重ねてここまで来ました。

その中で、ひとつだけ確かなことは、「後悔したくない」ということです。どんな演奏、プレーであっても、絶対、後悔したくありませんでした。最後の大会は、納得のいく結果もあれば、そうでない結果もありました。

でも、私は、３年間の努力の積み重ねに後悔はしていません。これまでの努力が、いつか実を結び、これからの私たちの自信となることを信じます。

生徒会活動の中で、私が学んだことは、「みんなの前に立つ人は、嫌われるようなことをしなければならない」ということです。生徒会役員、各委員会の委員長、副委員長、部活動のキャプテン、リーダーとなる人は、全体をまとめるために、指示を出したり、注意をしたりします。

しかし、それはとても大変で孤独です。「このままじゃ全然だめ」という言葉を、何度、みんなに投げかけたでしょうか。それはとてもつらいものでした。しかし、孤独を感じることはありませんでした。それは、いつも近くに仲間がいたから。

清流祭、合唱、つらいときは、励まし、声をかけ、いっしょに泣いてくれる、そんな仲間がいたから、すべての行事をがんばることができました。

そんな様々な行事の成功は、地域の方々の協力があったからです。

かほくまつりでは、１０年ぶりに復活する神輿を担ぐという形で、参加させていただきました。練習から、熱い指導を受けて、本番に臨みました。神輿をご覧になった多くの方々が感動し、涙を流して喜んでくださいました。私たちの活動が、多くの方の心をとらえ、少しでも地域に貢献できたことが、うれしかったです。これからも、この鹿北の一員として、地域を支える一人として頑張っていきます。

後輩のみなさん、これからの鹿北中を背負っていくのは、あなたたちです。

きっと、たくさんの壁にぶつかり、逃げ出したくなることもあるでしょう。しかし、後悔してからでは遅いです。今できること、やりたいことに思いっきり「挑」んでください。そして、楽しんでください。私たちを目標にして、支えてくれた２年生。慣れない学校生活の中、必死についてきてくれた１年生。

ありがとう。これからの鹿北中学校を、よろしくお願いします。

先生方、３年間、たいへんお世話になりました。
自分に自信が持てない私たち。そんなときは、厳しくもあたたかい言葉をかけていただきました。おかげで、今年の生徒会テーマ「挑」のもと、様々なことに挑戦することができました。そして、私たちは、ここまで大きく成長することができました。
本当に、ありがとうございました。

お父さん、お母さん。
大きな反抗はなかったかもしれませんが、生徒会活動で疲れているとき、学校で嫌なことがあったとき、受験の時期には、自分でも気づかずに、傷つけていたのかもしれません。
ごめんなさい。
受験前にもらった手紙に書かれていた、「今を必死になる」という言葉。普段は恥ずかしくて言えないからこそ、今、必死になって伝えます。
いつもそばにいて、つらいことがあったら、話を聞いてくれて、自分の行きたい道を歩ませてくれて、ありがとう。
これからも、もっと苦しい道が待っているかもしれません。もっと反抗してしまうかもしれない。それでも、私たちの味方でいてください。そして、全部受け止めてください。
これからも、よろしくお願いします。

そして、３年生のみんな。
小学校から今日まで、みんながいて当たり前でした。とにかく元気で、教室が静かだなと思ったことはなかったです。みんなとの別れはつらいです。
でも、これだけは言わせてください。つらいとき、声をかけてくれたり、支えてくれたり、笑わせてくれてありがとう。みんながいたから、がんばれました。私は、この学年が大好きです。だから、みんなと努力した、泣いた、笑った、楽しんだ日々を忘れません。

４月から、私たちは、自分の道を歩んでいきます。
大きな壁にぶつかるかもしれません。失敗や後悔をするかもしれません。そんなときは、この仲間を思い出し、もう一度、挑んでいきましょう。
「別れは人を強くする」
友との別れ、この地域との別れ、たくさんの別れを通して、私たちは、強く大きくなっていきます。これまで出会い、支えてくれたすべての方々に、心から感謝します。

名残はつきませんが、これから、私たちは、新たな世界の入り口に立ち、自分たちの描く未来へと、飛び立つことをお約束します。
３年間、ありがとうございました。

平成３１年３月９日
卒業生　代表　西牟田　光虹